

Real-world efficacy of belimumab in achieving remission or low-disease activity in systemic lupus erythematosus: A retrospective study

全身性エリテマトーデス寛解達成におけるベリムマブの有用性
長谷川 靖浩

目的：

全身性エリテマトーデス（SLE）患者において初めての分子標的治療薬として承認されたベリムマブ（BEL）は、標準治療（SoC）に追加することで疾患活動性を抑制しグルココルチコイド（GC）の使用量を減少させることが治験で証明されています。本論文では実臨床におけるBEL追加治療の効果に加え、低疾患活動性（LDA）および寛解達成に対する有用性を検討しました。

方法：

北里大学病院に通院しているSLE患者をSoCにBEL追加治療を行った患者（BEL+SoC）群と追加治療を行わなかった（SoC）群に分け、傾向スコアマッチングで特徴を一致させた56人をそれぞれの群より抽出しました。BEL+SoC群はBELを開始してから、SoC群は2021年7月を観察開始時期に設定し、12か月を観察期間としました。疾患活動性はSLE-DASで測定し、12ヵ月後にLDAおよび寛解に至った患者の割合を算出、LDAおよび寛解達成に寄与する因子をCox比例ハザードモデルにより同定しました。

結果：

BEL+SoC群で12ヵ月後のSLE-DASは有意に低下し、この効果はSoC群では見られませんでした。12ヵ月後のLDAおよび寛解達成率は、SoC群に比べBEL+SoC群で有意に高くなりました。LDAおよび寛解達成に寄与する因子の検討では、BEL追加治療だけでなく観察開始時の関節炎の存在も検出されました。GC使用量は双方で有意に低下しましたが、GC中止に至った症例はBEL+SoC群のみに認められました。観察期間内の再燃率はBEL+SoC群がSoC群に比べ有意に低下していました。

結論：

SLEの治療過程においてSoCにBEL追加治療を行うことはLDAおよび寛解達成に有用であり、特に関節炎を有するSLE患者で有益である可能性が実臨床から示されました。同時にGC投与量も減量可能であり、この結果は実臨床におけるSLE患者のtreat-to-targetアプローチにおけるBEL追加治療の有用性を示したものとなります。

<https://doi.org/10.1093/mr/road078>

全身性エリテマトーデスの寛解または低疾患活動性の達成におけるベリムマブの有効性

北里大学医学部リウマチ膠原病・感染内科学

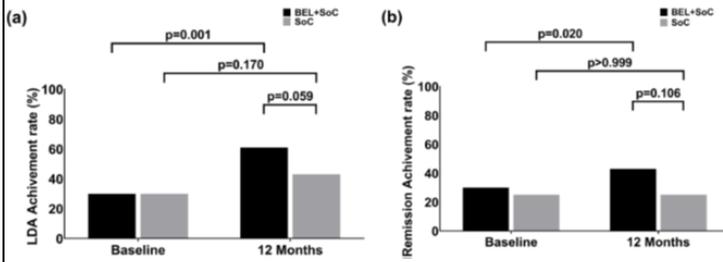


Figure 2. The achievement rate of SLE-DAS LDA and remission evaluated in patients with BEL+SoC and SoC alone.

北里大学病院にて加療しているSLE患者を対象に、標準治療(SoC)にベリムマブ(BEL)追加治療を行った56人(BEL + SoC群)と患者背景をマッチさせたBEL未導入患者56人(SoC群)の12か月の臨床経過を比較した。

BEL + SoC群はSoC群と比較して12か月後の寛解及び低疾患活動性達成率が有意に上昇した。

寛解及び低疾患活動性達成に寄与した因子はBEL導入と関節炎の存在が抽出された。

Multivariate	LDA			Remission		
	95% CI	HR	p-value	95% CI	HR	p-value
Arthritis	3.186– 47.64	12.92	.001	2.438– 25.98	8.861	.002
Belimumab	2.351– 26.35	6.893	< .001	2.276– 52.34	8.195	.001
Hydroxychloroquine	1.345– 17.62	4.060	.011	N.A.	N.A.	N.A.

Table 3. Factors involved in LDA/remission (multivariate)

BEL追加治療は寛解及び低疾患活動性達成に貢献し、特に関節炎を有するSLE患者で有用な治療手段となり得る事が示された。

Hasegawa Y, et al. Mod Rheumatol. 2024;34(4):732-740.